

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA

Special
対談

布施博 ×
水越けいこ

知的障がい者と共に

つむぐ もの

知的障がい者と共に

生きる こと

知的障がいを持つ息子と私
水越けいこの
「はじまり」

いきいきと元気に働こう！
知的障がい者
雇用企業訪問

知的障がい者と一緒に
物語を創る

つむぐ

月刊メルディア
創刊号 VOL.1
TAKE FREE

MELDIA

2018
JAN.

VOL.1

月刊メルディア 1月号 2017年11月25日発行 (毎月1回25日発行) 第1号 通巻1号
発行所/一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA GROUP

同じ家は、つくらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

25th
ANNIVERSARY

まだ25年、
これからのメルディア

努力してみたら
そこから得られる
ものも多かった。
介護と障がい。互いに広い共生社会を
目指すべきテーマで必要なものとは。

「一般財団法人メルディア」は「障がい者のスポーツを行なう児童・青少年を支援する活動」を通じて社会貢献活動を行う団体だ。その理事で歌手の水越けいこさんと、評議員で俳優の布施博さんの対談がここに実現した。水越さんはダウン症の息子さんを、布施さんは認知症で要介護のお母さんを抱える。ハンディキャップを持つ家族をサポートしていくことの難しさと、そこから得られるものについて語ってもらった。

Hiroshi Fuse
俳優
× Keiko Mizukoshi
シンガーソングライター



水越 けいこ
Keiko Mizukoshi

1954年、山梨県生まれ。女性デュオユニット「姫だるま」を経て、1978年に「しあわせをありがとう」でシンガーソングライターとしてデビュー。現在はダウン症の息子と共に暮らしながら、歌手活動を中心に幅広く活動している。

努力してみたから そこから得られるものも多かった。

抱え込まないこと。周囲の人はきつと理解してくれる。

布施 約3年前ですが、うちの84歳になるおふくろが突然モノ忘れが激しくなったんですよ。何しろ5分前にしたことも忘れてしまう。最初はたいして気にもかけなかったんですけど、しばらくするとごはんを1日

に7回も食べようとしたり、薬を何度も飲もうとしたり、1回の洗濯で洗剤を1箱使ってしまう。さすがにおかしいと思っただけで受診させたらアルツハイマー型認知症と診断されたんですね。ただごとでないことは分かりましたが、最初は知識もないのでどうすればいいか分からない。僕はスタジオに夜遅くまで詰めていたり、地方の口ケで家を空

けることが多いですから、携帯電話を持たせて小まめに連絡したり、家を空ける前は、ごはんを作って小分けにしておいたりという大変でした。妻（編注・女優の井上和子さん）の母も要介護なのでダブル介護ですからなおさらです。でも、できる限り家で過ごして欲しいので、私が介護しやすいように都内に家を引っ越しました。

水越 私の場合は苦労と思ったことはないですね。ただ、息子（今年25歳になりましたが）を出産してダウン症と診断された時に自分がとった行動が悔やまれてなりません。それまで周りに知的障がいを持った方がいなかったの、ショック

を受けてしまい、自分のなかですぐには受け入れられなかったんですね。

苦労とは思いませんでしたけど手がかかったと言え、息子がミルクアレルギーでなかなか授乳ができなかったこと。また、抵抗力が低くてすぐに体調を崩してしまいがちで簡単に風邪などにかかってしまうので、体調管理には気を使いました。布施 私もいろいろ思うところも多かったんです。最初はおふくろのおかしな言動にイラッと来るのがあったんですが、それまでは「いて当たり前」だったおふくろが愛おしく思えて来た。うちは貧乏で、おふくろ

はさんざん苦労していましたから。そんなこともあって、若い頃には抱いたことがない『恩返しをしたい』という気持ちが増して、今では仕事よりおふくろのことを優先したいと考えています。

支え合っているという 人間関係の原点を実感

水越 私も同じように感じています。最初はショックを受けてしまっただんですが、息子を抱いた時に、少し未熟児で体重は軽かったんですが、しっかりとした『命の重さ』がそこにはありました。それまでは幸せは他人がくれるものだと思っていたのが、息子を守るべき立場に

なって、今度は自分も与えなければと思ったんです。また、養護施設の先生やヘルパーの方々、まわりのスタッフや友人たち、他にもたくさんの人に支えられたことが嬉しくて、お互い支え合っているんだという人の原点に触れるような思いをたくさん頂きました。

布施 僕も、テレビなどのメディアでおふくろのことを話したら、小林稔侍さんや岩城滉一さんといった俳優の先輩でやはり親の介護を経験した方々から励ましの連絡をたくさん頂きました。そういった周囲の理解というものには本当に救われる思いがしました。ただ一方で、自治体の受け入れ体制の



布施 博
Hiroshi Fuse

1958年、東京生まれ。舞台俳優としてデビューし、映画やテレビドラマで数多く活躍。バラエティ番組への出演も多い。現在は劇団「東京ロックンパラダイス」と「東京DASH!」を主宰し、後進の指導にも注力している。

MELDIA

一般財団法人「メルディア」とは

障がいのある方を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じて、広く人々と社会に貢献することを目的として設立されました。

「メルディア」の基本理念

一般財団法人メルディアは社会的・経済的ハンディを抱える方々の「未来」に少しでも希望が持てるように、財団の活動を通じて支援し、社会貢献してまいります。

知的障がい者支援

障がい者の子供を持つ親の苦労や不安は計り知れないものがあります。

さらに、親が「片親」ともなると、経済的負担や苦労・不安もその親一人で背負わなければならない状況です。不安な生活の中で、情報交換もあまりできない方々の情報源となるような刊行誌を定期的に財団で作成し、そういった方々への有益な情報提供と、障害者の持つ課題等を広く社会に広く知ってもらうこと、そして様々な企業や個人から、支援団体などに対する寄付を募ることを目的として、本誌「MELDIA(メルディア)」を発行し支援活動を行います。

青少年スポーツ支援事業

家庭の事情等で経済的に恵まれない 青少年のフットボーラーのための奨学制度

アルゼンチンのロサリオ出身のリオネル・メッシは、経済的に恵まれない低所得な家庭に生まれましたが、チームが彼を支援し彼も成長して世界を代表するフットボーラーとなりました。メッシは才能を評価され、たまたま支援を得られましたが、青少年の中では、才能があっても経済的な家庭の事情で、サッカーをする環境に恵まれずに支援がないまま、選手としてプレイをあきらめざるをえなかったり、適切な環境でプレイすることができない人たちがいます。そういう若者は、日本にも数多くいるのが実情です。

そのような青少年フットボーラーがプレイを継続するために、頑張る人を支える奨学制度を財団法人メルディアが実施し社会貢献したいと考えています。

財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: general foundational juridical person MELDIA)
設立者 小池 信三
設立日 2017年5月23日
所在地 〒163-0632
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <http://meldia.org/>
MAIL prd@san-a.com



ALL ABOUT MELDIA

「メルディア」とは?

「メルディア」とは、イタリア語である「メダリア」の造語であり「メダルを」という意味です。財団メルディアは、『輝かしい人生』を手に入れて頂きたいという想いが込められた名称です。障がい者本人に加えその家族、また経済的な理由からスポーツが続けられない青少年など、「社会的なハンディキャップ」を持つ人々に対して『夢を諦めることなく挑戦することができる』ように支援をしていくことを目指しています。

MELDIA



Hiroshi Fuse
× Keiko Mizukoshi

不備も感じました。どの地域でも養老施設は明らかに不足していて、裕福な人たちが利用できないのが現実です。しかもこの事は、今後さらに深刻化する問題のはずです。もっと広く多く社会で語られるべきテーマなんじゃないでしょうか。

水越 知的障がいの場合でも、うちは様々な手当をもらってやってこれましたが、成人する時に大きな壁があるんですね。一般就労の受け入れには限界があつて、例えばパソコンの操作が十分に行えるなど作業に問題がないとしても働き先が明らかに足りない。その点、介護と同じ様に

社会の理解が必要だと思っています。だから私の場合は歌を通じても理解を広めてもらう活動を行っています。

むしろ関係のない人にこそ理解が広がる必要がある

布施 歌や音楽が与える力って大きいですからね。僕も縁あつて財団の方から声をかけていただいて、こういう仕事をしているので、演技や演劇を通じて微力ながら何か世の中の人々に訴えかけられたいのは、たぶん介護も障がい者を抱えた家族も共通なんじゃないかと。必ず周囲の人



●苦労とは思いませんでしたけど授乳の手はかかりました。(水越)
●僕も介護を経験した先輩方から励ましを頂きました。(布施)



- 演技や演劇を通じて何か世の中の人々に訴えかけられればと考えています。(布施)
- 知的障がいへの理解はだいぶ進みましたがまだまだですね。(水越)

※撮影協力:Cafe SAWAYA
東京都新宿区三栄町6小椋ビル 1F
TEL:03-3351-9175

は理解を示してくれるはず。僕はおふくろの介護を通じてそれを学んだ。そういう周囲の理解という意味では、この冊子もむしろそういった介護問題に関心の無い、例えば若い人なんか手に取ってもらえればいいですね。

水越 私もまったく同感です。知的障がいに関していえば、息子が生まれた20数年前に比べれば、ダウン症協会もできるなどして関係者や周辺での理解はだいぶ進んでいます。でも、まだまだそれだけじゃ足りない。むしろもっと広く、関係ない人にこそより理解が広がってくれば、こんな良いことはないと思います。



チャレンジャー（知的障がい者）も健常者も、同じ作業工程で、ほぼ同じ作業を行う。説明がなければ、誰が障がい者で誰が健常者なのか分からない。

藤本 平成2〜3年頃だったと思いますが、知人の娘さんを雇用したのが一番最初ですね。その後も、特別支援学校から「障がい者に作業をさせてもらえないか」という打診があったりはしたのですが、その頃はまだまだ何も受け入れ態勢というか、社内の環境も整備されていなくて、一旦はお断りしました。でも、学校側の担当者がとても熱い方で「障がい者でも何でもできるから」と、強く推薦されたんですね。それで雇用してみることになりました。

右手 チャレンジャーの仕事内容を教えてください。

藤本 正社員の他に健常者のパートさんがいますが、そのパートさんたちとほぼ一緒の仕事をしています。

右手 チャレンジャーとして採用するにあたっての条件などありますか？

藤本 何らかの方法で、自分だけで通勤が可能なのが条件ですね。チャレンジャー44名のうち、約90%が知的障がい者、その他には重複障がいの方もいますが、全員が自分で通勤しています。

右手 知的障がいのあるチャレンジャーを雇用していて、苦労や問題などはありましたか？ また、雇用するにあたり、ここは「工夫した」「こう改善した」などあれば具体的に教えてください。

藤本 最初はチャレンジャーの彼らとコミュニケーションをとる方法が分からない、相互にコミュニケーションがとれない、というようなことが多くあったのでそこだけは苦労しました。僕も家族に障がい者がいるので良く分かるんですが、一般の方は障がい者と、どう接していいのかさえ分からないと思うんですよ。優しく接すればいいのか？ 何でも手伝わなければならないのか？ といえば、実はそうではない。そうになると、どう接すればいいか分からない。健常者も非常に疲



どの作業を誰でもできるように、イラストで分かりやすく解説したマニュアルも存在する。マニュアルによるこの手法には右手ナギも関心することしきり。

れるし、作業効率も悪くなる。だからといって何もしてあげないわけにはいかない。健常者の社員にも相当なストレスが溜まったと思うんですね。しかし、現場の社員たちの努力もあって、一緒に仕事をしているうちにコミュニケーションが取れるようになり、今では障がい者も健常者も区別なく会話し、相互理解も進んでいると思っています。また、雇用してから何も訓練をしないと仕事はできないわけで、最初にしっかりと作業訓練をしています。作業工程では、健常者とまったく同じ作業をこなせない場合もあるのですが、作業工程や手順を見直すなどの工夫や改善は常にしていますね。

知的障がい者雇用企業訪問

障がい者を応援！

いきいきと働こう！

茨城県水戸市
株式会社ヴィオーラ



知的障がい者を含む障がい者の雇用割合が、実に全社員の4分の1にも上る企業がある。同業他社はもちろん、地域の他企業にも先んじて障がい者雇用に先鞭をつけたといわれるのが、茨城県水戸市にある株式会社ヴィオーラだ。

ヴィオーラは藤本社長の情熱と、担当者らによる創意工夫、社内全体で取り組んだ労働環境の改善により、障がい者と健常者が何ら違和感なく共に働ける会社となった。その手法は多くの衆目を集め、現在では取材や視察が引きも切らない。

それでもなお「障がい者をもっと雇用したい」と語る藤本社長のもとに、MC、女優、レポーターとしてマルチに活躍する右手ナギが話を聞きに向かった。



株式会社ヴィオーラ
茨城県水戸市見川町2131-404
業種：おしぼりレンタル業・他

右手 こちらの会社にはどれくらい社員の障がい者がいますか？ また男女比と、障がいを持たれている方の人数はどれくらいですか？

藤本 社員数はグループ全体で170名です。男性が32%、女性が68%、当社では障がいを持つ社員のことを「チャレンジャー（挑戦者）」と呼ぶのですが、そのうちチャレンジャーは44名です。

右手 そのチャレンジャーを最初に雇ったきっかけは何だったのですか？

工夫・改善、努力・アイデアで障がい者雇用を継続増進する



MC・女優 **右手 ナギ**

岡山県出身。2007年より「エフエムつやま」朝の情報番組・バラエティ他メインパーソナリティを9年務める。また、ケーブルテレビ・イベントMC・一日消防署長・歌唱等その活躍は多岐にわたる。



敷地内にはカラフルなペイントを施したユニークな建造物が並ぶ。これらは会社が指示したのではなく社員の有志らが率先して作ったものという。

← 今回のレポーター・右手ナギの取材記「トウテミル!」は次ページ



藤本 昌宏 株式会社ヴィオーラ 代表取締役

2010年から現職。様々な努力と創意工夫で自社の労働環境を改善し、障がい者の雇用増と社員の満足度の向上を計り続ける。「目指すは"日本一社員が喜ぶおしほり会社"」と語る静かなる熱血漢。



イラストの作業マニュアルをはじめ、社内の随所に社長のアイデアが散りばめられている。

右手 この先も、障がい者の雇用と採用を続けていきますか？
藤本 できれば、障がい者も含めて「就労困難者」の雇用数を茨城県内の企業で一番多くしたいと考えています。仕事が無いと雇用も採用もできない。そのためには仕事の量も増やさなければなりません。新たな仕事を受注したり、独自の雇用体系を創出するなどしなければなりません。仕事と社員が増えれば、自動的に社員のお給料も上がる。つまり、社員が「喜ぶ」というのは、物心両面が豊かになること、職場の環境も

でも、「仕事がしたいです」と。それには本当にすぐ助かっています。
右手 一般の人でも、仕事が嫌であったり、職場に居づらい雰囲気だったら、そもそも出社しても来ないですよ。それは、「やりがい」も含めて、彼らが仕事をしたい「楽しい」と感じているということなんじゃないかな。
藤本 そうかもかもしれません。それと、A型(※1)の場合、社員の中に「指導員」というのを置かなければいけないんですが、その指導員に指名された社員がすぐ喜ぶんですね。それは、使命感というか、「他人(ひと)のために自分が給料も良くなること、なんだと思います。
右手 最後に、これから知的障がい者の雇用を検討している企業に対して何かアドバイスなどありますか？
藤本 ここ数年、日本全体の求人率や雇用率が徐々に上昇していて、障がい者に対する求人率と雇用率も以前に比べてだいぶ上がって来ています。障がい者の雇用は意外に「売り手市場」で、一般企業が障がい者を雇用する率が高くなって来ています。こうなると、知的障がい者にも働きやすい環境が整備されて来ているのではと感じます。障がい者を雇用した企業は、「障がい者を理解してあげるこ

と」「認めてあげること」など、社内に受け入れやすい・働きやすい風土を作っていくことが必要なんだと思います。
右手 一般の社会でも、相互の理解を深めるには、まず「お互いに認め合うこと」が必要ですね。
藤本 障がい者の程度が違うように、障がい者の「伸びしろ」もそれぞれ違います。その伸びしろを理解してあげて、「必ず伸びる」と信じてあげること。障がい者だ、障がいがある、という先入観を捨てて、決して諦めずに「きっとできる」「必ずできる」と信じてあげることが大事なんだと思います。

右手 知的障がい者を雇用して良かったと思ったことはありませんか？
藤本 まず第一に、まじめであることですかね。それと、「休まないで来て(出社して)くれる」ことです。お盆の前後やお正月など、誰でも普通は「休みたい」って思うじゃないですか？ しかし、その時期はサービス業にとっては繁忙期でもあるわけで、休みをあげてしまうと人手がどうしても足りない。そういう時でも「休まなくていいです」と進んで仕事に来てくれるんです。例えばこちらが「休んでください」と言っ

でも、「仕事がしたいです」と。それには本当にすぐに助かっています。
右手 一般の人でも、仕事が嫌であったり、職場に居づらい雰囲気だったら、そもそも出社しても来ないですよ。それは、「やりがい」も含めて、彼らが仕事をしたい「楽しい」と感じているということなんじゃないかな。
藤本 そうかもかもしれません。それと、A型(※1)の場合、社員の中に「指導員」というのを置かなければいけないんですが、その指導員に指名された社員がすぐ喜ぶんですね。それは、使命感というか、「他人(ひと)のために自分が給料も良くなること、なんだと思います。
右手 最後に、これから知的障がい者の雇用を検討している企業に対して何かアドバイスなどありますか？
藤本 ここ数年、日本全体の求人率や雇用率が徐々に上昇していて、障がい者に対する求人率と雇用率も以前に比べてだいぶ上がって来ています。障がい者の雇用は意外に「売り手市場」で、一般企業が障がい者を雇用する率が高くなって来ています。こうなると、知的障がい者にも働きやすい環境が整備されて来ているのではと感じます。障がい者を雇用した企業は、「障がい者を理解してあげるこ

貢献できる」ことが、すごく嬉しいのかも知れません。実際、指導員に話を聞いてみると、「彼らにもっと成長してもらいたい」「仕事ができるようになってもらいたい」と言っています。チャレンジャーの成長が指導員の「喜び」や「嬉しさ」になるのだと思います。チャレンジャーにとっても、「仕事ができる」と褒められる、それが嬉しい」となっているようで、指導員とチャレンジャーとの関係が、現在良い循環となつていると思います。
右手 指導員に指名された社員の方とチャレンジャーとで、良い関係が構築できていて、それが会社にとっても「良い循環」を生み出しているということですね。
藤本 社員に「ウチの強みって何？」って聞いてみたことがあります。その答えが「チャレンジャーと一緒に働いていること」でした。それは、現在のように多くのメディアに取り上げて頂いたり、全国から視察にこられる方も大勢いらっしゃるなかで、皆さまの目に触れる機会が増えることで、企業としての知名度や価値、ひいては社員の満足度も上がるのだと気付きました。この部分をもっと伸ばして、いつかは「日本一社員が喜ぶおしほり会社」と言われたいですね。

(※1) 就労継続支援A型 障がい者が一般就労を目指し、雇用契約を結び給料の支給を受けながら利用する事業。雇用契約のないB型と違い、最低賃金が保証され比較的安定した収入が得られる。

トウテミル!

MC / 女優

右手ナギ

うて・なぎ



茨城県水戸市
株式会社ヴィオーラ

障がい者雇用という言葉に どんなイメージを持つ?

東京から離れ、茨城へ——
今回の取材の切り口は『障がい者雇用』について。

少し堅そうなテーマですね。
株式会社ヴィオーラさんがどんな
会社で、実際にどんな方が働いて
いるのか、現地に到着してすぐに驚
き、そして納得しました。

自然に囲まれた同社の工場は、各
所に様々なペイントなど遊び心が施
され、見ただけで障がい者と健常者
との関係や社風を感じ取れます。
では、いざ取材!



株式会社ヴィオーラ
代表取締役・藤本昌宏さん

障がい者を「チャレンジャー」と呼ぶ
ヴィオーラは、障がい者でも様々な仕事
が出来る様に各種の仕組みを作ったチャ
レンジャー（挑戦者）でもありました。
体当たりでチャレンジャー（障がい
者）や、時にはその親御さんたちともき
ちんと向き合う代表取締役の藤本さん。

少し緊張気味ではあったけれど「仕事
が楽しい」と職場について話してくれた
チャレンジャーの雄一君。

「彼ら（障がい者）に教えてもらおう事
も多い」と、障がい者に対する、この理
解や向上心が会社を支えているのだらう
と話してくれた生活支援員の大内さん。

「偏見ではなくかわいいと思う」、そし
て「チャレンジャーの存在は会社の強み」
と言い切った企画室室長の吉野さん。

その他にも この日出会った方々がみん
な笑顔だったのがとても印象的でした。

「子どもは親を映す鏡」と言います
が、「社員は会社を映す鏡」で、この日
にお会いした皆さんが笑顔だったと言っ
た事は、きつとそういう事なのでしょう。

「認める」と「楽しむ」と その根底は「人との繋がりが」

以前、ダウン症の子どもの達のコン
サートの司会をした事があります。
一生懸命練習する姿やステージで輝
いている子ども達に心打たれまし
た。司会の私は2回しか子ども達に
会っていませんが、感動しました。
ずっと近くで見守ってきたスタッフ
はもつと感動した事でしょう。

今回の話に置き換えると、本番は
「働いている毎日」に、見守ってき
たスタッフはヴィオーラで働く健常
者の皆さん。もちろん今回は「雇用
関係」なのでコンサートとは違いま

すが、そう思うと、なんとこの事のない
日常が、心打たれる日々へと劇的に変わ
りますね。

勿論数回しか会っていない司会者役の
私には分らない、双方の努力や衝突や苦
労があったとは思っているので。

さて、今回の取材で藤本さんがチャレ
ンジャーと長年向き合い、辿りついたの
が「認めてあげること」でした。文字に
すると読み流してしまうかもしれませ
んが、実際に行動し、辿り着いたご本人の
言葉にはとても深い重みがありました。

「障がい者雇用」と聞くと堅そうです
が、結局その根底にあるのは人と人との
繋がりで、また 工場の各所で出迎えてく
れたペイントや仕事の仕組みにも反映さ

れている「たのしむ」と言う心の余裕
が、良い人間関係・生産性を生み出す会
社を作っているのだと感じられました。

私は、工場を見学させてもらったとき誰
が障がい者で誰が健常者なのか、ユニ
フォームを見ないと分りませんでした。

私だけでなく配達先のお客さんも同じ
だった様で、チャレンジャーに仕事の質
問もする事もしばしば。以来、配達へ行
く際は「チャレンジャー」とプリントさ
れたベストを着用しているんだとか。

話を聞いて自分の目で見ると、通常の
「雇用」も「障がい者雇用」も大差な
く、とても身近なものでした。

読者の皆さんは障がい者雇用という言
葉にどんなイメージを持ちますか？



チャレンジャー・木村雄一さん



チャレンジャー・藤田聡さん



企画室室長・吉野のぞみさん



チャレンジャー・木村雄一さんと、茨
城自律支援センター「就労継続支援A
型事業所／ともに」の生活支援員・
大内峰子さん（右）



はじまり

へ水越けいこ新連載

1



シンガーソングライター
水越けいこ

1954年山梨県生まれ。1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後シングル「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子と2人暮らしをしながら音楽活動や講演活動を行っている。

息子と私との「はじまり」がすべての物語の「はじまり」

はじめまして。水越けいこです。ずいぶん昔の話になりますが、TBSの朝の番組「8時の空」で田中星児さんと歌わせて頂いておりました。「懐かしい！」なんて声が聞こえて来そうですが、現在も音楽活動を続けていますよ。(笑)

私が20代の頃、テレビ出演やコンサートツアー、レコードのリリースなどもあり、忙しく過ごしておりました。そんな生活が少し落ち着いた32歳の頃、当時ミュージシャンだった方と結婚し、念願の子供を授かり

ました。名前を「麗良(れいら)」と名付けました。

産まれた時、元気良く泣かずに静かな声で泣いたので、きっと性別は女の子だろうと思っていました。しかし男の子だったので随分大人しい子なんだな、だなんて思ったものです。

出産の翌日、看護師さんから「先生が呼びです」と言われ、「なんだろう?」と思いき先生の待つ部屋へ行きました。早起きが苦手なはずの夫がすでに先生の部屋にあり、その空気感で何かがあることを察しました。そして次の先生の一言から、私の人生は急変していったのです。

「息子さんはダウン症です」

母となった私の気持ちの変化 息子の成長と親としての自覚

どちらのお母さんもそうでしょうが、子供が幼い頃、私もよく子守唄を歌って聞かせました。とても安心して眠っているだろうその様子は、同時に私にも安らぎを与えてくれる瞬間でした。そんな時のことを少し振り返ってみようと思います。

息子は、先に書きましたようにダウン症という障がいがありますから、「気持ちよく眠らせる」という事が実はとても難しかったのです。

周りの赤ちゃんよりも身体が弱いものですから、いつも全く気を抜けない状況が長く続きました。

ミルクを飲んでくれない、すぐに風邪をひく、原因不明の高熱を出すなど、毎日が戦いという感じでした。気持ち良さをうにぐすり眠る息子を見ることができるのは、私には貴重でも大切な時間だったのです。

そんな不安定な時期から、少し安心が出来るようになってきたのは、息子が5歳位になった頃でしょうか。だんだんと元気になってきた息子は、NHKの番組「おかあさんといっしょ」が好きになり、曲に合わせて歌うようにもなりました。日常で何気なく流れる音楽にも自然と興味を持ち、「あら、親に似て音楽好きなんだなあ」と嬉しく感じました。

徐々に成長する中で、特に教えた事はなかったのですが、息子はCDプレイヤーの操作を覚え、私のCDライブラリーから色々なアルバムを選んで自分で好みに聴くようになりました。

そして、特に気に入ったのが、水越けいこのアルバムです。ちなみに、今では息子は私よりも私の曲に詳しいかも知れません。(笑)



息子が10歳になるかならない頃から、だんだんと1960〜80年代の洋楽ポップスやロックが好きになり、CDに合わせて歌ったり、ミュージックビデオに合わせて踊ったりするようになりました。

ある時、エリック・クラプトンの武道館コンサートと一緒に観に行きました。ほぼ全ての曲と一緒に口ずさみ、ご機嫌でした。「次はビートルズを観に来ようね!」と言うので、「それは無理だよ」と説明しましたが、理由を判ってくれたかどうかは定かではありません。

幼い頃に聞かせた子守歌と歌手としての私の歌、そして音楽が大好きになった息子。何か関係があるかどうかは判りませんが、いつまでも音楽を愛し楽しめる親子でいられたら嬉しいのです。

SAN ACTORS SCHOOL

サンアクターズスクール

俳優養成スクール

生徒募集

俳優・布施博をはじめとした実力派講師陣から演技指導を受けられると評判の俳優養成スクール「サン アクターズ スクール」では俳優またはタレントを目指すレッスン生を募集しています。



塾長／俳優 布施博

POINT

実力派揃いの講師陣

塾長の布施博を始めとして、芸能界の第一線で活躍中の演出家、脚本家、実力派俳優が直接指導します。

POINT

芸能事務所に所属可

芸能事務所が運営する養成学校だからこそ、養成課程の終了後は芸能事務所所属の演者としての活躍が可能です。

POINT

デビュー機会が多数

映画、ドラマ、テレビ番組なども制作している会社だからこそ、レッスン生にも多くの出演機会が与えられます。

講師陣には、塾長の布施博を始めとして、芸能界の第一線で活躍中の演出家、脚本家、振付師などを登用しています。芸能界で活躍するための実力を付けられるよう万全のカリキュラムを用意しています。

他の俳優・タレント養成スクールでは、一定の養成期間を経ないと各種メディアに出演できない場合が多くあります。しかし、当スクールのレッスン生は、講師陣やスタッフの推薦により、当社が制作やキャスティングに携わる、映画、ドラマ、テレビ番組、CMなどへ優先的に出演が可能です。また、当社が制作に関与するその他のメディア（ドラマ・映画・CM・その他ムービーを含む）に出演者として推薦すると同時に、万全なサポートと強力なバックアップを行います。

Let's Start now!

- 募集内容 小学生（就学予定を含む）以上～年齢上限なし
- レッスン場所 本校／当社レッスンルーム
東京都新宿区三栄町7 ヴィラ・アート四谷3階
足利校／足利レッスンルーム
栃木県足利市通2-12-11（プラザハマダ2階・ハマダホール）
- 費用（月謝） 10,800円／月（税込／教材費を含む）
- お申し込み 当社まで電話にて／または当社ホームページ上からも申し込み可能
- お問い合わせ 株式会社 サン・オフィス／TEL:03-5361-7766（代）
- 入校説明会 随時開催しています ※日程などの詳細は当社までお問い合わせください
- 詳細はこちら サンアクターズスクール／<http://san-actor.com/>
右側のQRコードをスマホなどで読み取っても閲覧可能です



☎ 03-5361-7766 ✉ info@san-actor.com

▶ 障がい者の方もご応募頂けるコースもございます。 ※詳しくはお問い合わせください。

T.OKAMOTO column

岡本隆根 何気ない言葉

～ダウン症の弟を持つプロデューサーと出会って～

みなさん初めまして、岡本隆根と申します。職業はロックシンガー。生まれは兵庫県、と言っても歩いて30分もすれば岡山県という県境。自然いっぱいでもど辺鄙（へんぴ）な田舎町で育ちました。

幼稚園が一緒なら、高校まではほぼ一緒。道は一本、家の近所には信号どころか横断歩道すらない。学校帰りに寄るところなんて、肉屋くらいしかなかった。コロケを買い食いし、スーパーで不良にからまれ、町で唯一の娯楽施設「ファミリア（カラオケボックス）」へ行けば先生に見つけて自宅謹慎を喰らうなど、到底都会では考えられないような思春期を過ごしながら、18歳の時に上京しました。東京というところは、街の華やかさも去ることながら、僕にとって一番の衝撃は「ほんまにあらゆる人たちがいるんやな」ということだったと思いました。

そんな若き頃から、紆余曲折があって現在のプロデューサーに出会うことになりましたが、それはまだだいぶ先の話です。なんと言っても、音楽をやりて東京へ来た訳では、そもそもちゃいましたからね。



岡本隆根ワンマンツアー
～KINGS OF THE ROCK～

2018年2月9日(金)
【大 阪】 なんばHatch
2018年3月23日(金)
【名古屋】 Club Diamond Hall
2018年4月28日(土)
【東 京】 さくらホール
渋谷区文化総合センター大和田

岡本隆根ブログ <https://ameblo.jp/takaneokamoto/>

岡本隆根レギュラー番組
ZIP-FM (77.8MHz) 「ON THE ROCK」 毎週日曜日23:30～24:00
FM OH! (85.1MHz) 「どいでい〜ず」 毎週木曜日 20:30～20:55



シンガーソングライター

岡本隆根

Takane Okamoto

1979年兵庫県生まれ。法政大学に進学するも中退。その後、紆余曲折を経て音楽活動を志すが様々な寄り道を繰り返し大停滞する。30代に入り、真剣に自分の音楽への意思を見つめ直し再出発。現在では、その勢いが認められ各界において支持者が続出中。





知的障がい者と一緒に「ものがたり」を紡ぐ

つむぐ

知的障がいという一つの世界観 養護学校に見た『素敵なもの』

「障がいを持つ人をテーマにした記事を書いてみないか？」そう言われた時、私は「考えさせてほしい」と答えました。私の周りには、障がいを持つ人は少なく、自身の知識も浅い。私では不応なのではないか？と感じたからです。

その場では返答せず、答えを保留した理由は養護学校へ見学に行きたかったからです。話を断るにしても一度肌で感じてからにしようと思ったからです。

学校見学に参加して、まず私が感じたのは『職員の方の明るさ』でした。知的障がいを持つ生徒さんと話す姿が心の底から楽しそうに見えたのです。その明るい笑顔を見て私は、養護学校の職員はやりがいのある仕事なのだろうと感じつつ、実はその理由がよく分かりませんでした。



取材・文
渡邊 希望 脚本家・俳優

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年「劇団ショートホープ」を立ち上げる。活動は脚本家と俳優に留まらず演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。

レイくんのやさしさと明るさ 協力の暖かさとその心強さ

この企画を実現させるためには、知的障がいを持つ方で本人の協力はもちろん、そのご家族の協力が必要でした。知的障がいを持つ方にとって『慣れ』がとても重要らしく、初対面の私と1対1では怖がらせてしまいかねません。

それに加えて、私自身もこの企画に対しては手探りの状態でした。先述したように、そもそも私は『障がい』に関しての勉強を始めたばかりでした。知的障がいを持つ方とのコミュニケーションの取り方もよく分からなかったのです。

そんな状況にあっても、1回目の小説を書くために協力をしてくれた方がいました。それが今回から登場する『レイくん』でした。彼は、本冊子にも連載を持つ歌手・水越けいこさんのご子息で、ダウン症を持っています。

水越さんに本企画案をお話する機会があり、それに対して水越さんが、「渡邊さんがレイと直接話しをしてみれば彼がそれを了承するなら」と、とても好意的に受け入れていただき、その数日後にはレイくんと会うことができました。

私が記事を書きたいと強く思ったきっかけはそんな疑問の中にありました。学校見学で、担当の先生に校内を案内して頂いている途中でした。その先生は廊下に貼ってあった一枚の絵の前で立ち止まり、説明を少し止めました。絵を眺めた後で私の方へと向き直り「素敵だと思いませんか？」と一言だけ仰ったのです。

その楽しそうな先生と廊下にあった力強い絵の数々。私にはその空間のすべてが素敵なものに思えました。それがきっかけでした。先生方の表情が明るい理由も『素敵なお仕事をしているから』なのだと一瞬で理解できました。

学校見学を終えて、私は知的障がいを持つ人の世界観に触れてみたい、その世界観を表現したいと思いました。

ここで、保留していた「答え」が出ました。それは『知的障がいを持つ方のアイデアから短編小説を書きたい』でした。



レイくん。
洋楽、中でもマイケル・ジャクソンが好きで、ダンスも習っているそうです。私が「見せて」と頼むと迷わず踊ってくれました。

レイくんには私のことを「のんちゃん」と呼んで貰おうと思いましたが、知的障がいを持つ方は、そのまま名前と呼ぶのが苦手なことが多いらしいのです。

実際に話をすると、レイくんは明るい人なのだと思いました。水越さんも、「レイは普段から頼まれごとを嫌がらない」と仰っていて、私が「のんちゃんと呼んで」とお願いした時も、笑いながら「のんちゃん」と呼び返してくれました。

私は「小説と一緒に作ってほしい」とお願いをしました。すると彼は、私の不安を払拭するかのようになり、強い意思を感じるはっきりとした声で「僕は、やりますよ」と明るく答えてくれました。



経験不足と私、遠回りとおかしい 気づいたこと、ヒトはヒト

私が本冊子に記事を書くために必要だった、『企画』と『取材の許可』がこれで揃いました。「あとは小説を書くだけ」であれば良かったのですが、実は、もう一つ大きな問題がありました。

初めてレイちゃんと会った日は「協力します」という返事をもらえたところまででした。私と彼とで「一緒に小説を作ろう」という件は、後日もう一度彼に会ってから進めることになっていたので。

問題はここにあります。最初に書いた通り、そもそも私には知的障がいを持つ方と話した経験が足りません。しかし、私が書きたいのは、知的障がいを持つ方の世界観です。彼とどんな話しをすれば、その世界観を感じることが出来るのか？ という懸念と、肝心の「小説と一緒に作る方法」については、何ひとつ考えがまとまっていませんでした。

彼がこの企画への協力を快諾してくれた日から数日後、私は水越邸に向かいました。その時点でも私はまだ何も思いつかないままでした。そんな私の不安を、彼は簡単に吹き飛ばしてくれたのでした。

私のその大きな間違いは『知的障がいを持つ方に接した経験の有無』など、そもそも必要なかったということでした。

私がやりたかったのは、『知的障がいの方が持つ“世界観”に触れること』と、『そこから得られたアイデアで物語を紡ぐ』ことです。それは換言すると、『気になる人と話してみたい』という気持ちと同じで、普段と何ひとつ変わらない行為でした。『経験の有無は関係ない』のだという事に気づくまでに、随分と遠回りをしていたのでした。

初めてレイちゃんと会った日、彼の母親である水越さんが、「レイには何でも聞いて」と私に言ってくれました。その言葉こそ、今回私が感じたことの本質であったように思います。

健常者と障がい者の間には、当然多くの『違い』があります。しかし、『その人が魅力的かどうか』を計る指針とするには、『違い』など、どうでもいいことです。私は、彼らの個性が魅力的だと感じ、改めて記事を担当したいと思うようになりました。

こうして、本企画を進めるにあたって私の迷いも吹っ切れました。次号から思い切ってやっていきたいと思えます。

私は不安を抱きつつ逡巡していましたが、実はそれこそ大きな間違いであったと彼が気づかせてくれたのでした。

彼と再会し、まずは他愛もない話から始めました。すると彼は、家に置いてある一番好きなものの紹介を始めたのです。その瞬間、私はふと気がきました。彼はずっと「自分のこと」を教えてくれようとしていたのだと。彼の持つ世界観を彼なりの手法で私に伝えようとしてくれていたのであると。

まず私が彼と最初にすべきであったことは、彼と「話をする事」であって、彼から「意見を聞き出す事」ではなかったのです。



レイくんがアルバムの中の写真について説明してくれているところです。楽しそうに話しているレイくんは、まさに物語を「紡いで」いるようでした。

取材後記

今回の取材は、楽しかったです。レイちゃんと水越さんにはお世話になりっぱなしでしたが、そのお陰で少しは私も成長できたのではないかと思います。次号から完成した小説も載せていきます。今のところ、『星の王子様』のような雰囲気の商品になりそうですが、ぜひ次号にて完成作をご覧ください。

本企画「つむぐ」では、小説の制作に協力して頂ける方を募集しています。詳しくはP27の募集コーナーに載っていますのでぜひ応募ください。ご本人からの連絡が難しい場合は、施設の代表者や保護者の方からでも問題ありません。ご感想や、ご質問だけでも結構ですので、お気軽にご連絡ください。



アライヴしゅんせい!

最前線の生きるを見つける



子ども映像
メディアアート
ブース

わずか3年で50万人を集めた 「キッズピアあしかが」

栃木県足利市にあるスーパーの2階に、多くの子育て世代から人気を集める室内型遊技場がある。名前は「足利市屋内子ども遊び場・キッズピアあしかが」。足利市が平成26年12月から開始した子育て支援策で、平日休日問わず多くの親子連れで賑わっている。

特徴はなんといっても、一人80分100円の入場料（大人、子ども問わず）の安さである。民間の施設では30分500円という場所もあることを考えれば、子育て世代にはありがたい。またサーキットゾーンやアクティブゾーン等、目的にあわせた5つのゾーンからなる多彩な構成や、玩具会社ボーネルンドによる魅力的な遊びの提供力、天候に影響されずにいつでも遊べる点も重要な特徴だ。

新事業参入前の不安感を払拭 得られた「責任感」と「達成感」

障がい者向けの社会福祉事業をメインとして展開してきた足利むつみ会に、作業場で外部との接触が少ない単純作業の業種ではなく、子どもや親など外部の人との繋がりが必要な業種であるキッズピアの運営の話が上がってきた。

「まったく新しい挑戦だったため不安もあった」

このように話すのは、キッズピアあしかがでマネージャーを務める阿由葉洋平氏だ。「運営開始当初はスタッフが足りず、法人の各施設からヘルプで運営に携わってもらった」と当時を振り返る。

キッズピアあしかがの職員総数は23名。そのうち10名が何らかの障がいを持った方で、約7割が知的障がい者だ（平成29年10月現在）。ここで就労する障がい者は、雇用契約が必要で最低賃金が適用される就労継続支援A型（※1）として一般就労を目指している。

「キッズピアのような場所は他にないのではないかと阿由葉氏が指摘する。うに、障がい者就労継続支援という地域や法人によって様々な業種があるが、



取材・文
末吉 利啓 栃木県足利市市議会議員
プロレスラー

その人気を示すように、当初目標としていた年間来場者15万人は2ヶ月前倒しで達成し、オープンから2年9ヶ月で延べ来場者が50万人を突破した。評判は市内にとどまらず、群馬県や埼玉県など、市外から多くの利用者が来場し、全体の約4割を市外からの利用者が占めている。最近では自治体等からの視察も多く、類似施設が整備される例も増えている。

そんなキッズピアあしかがは、市内の社会福祉法人「足利むつみ会」が、足利市から遊具設置費用と運営費用の補助を受けて運営している。足利むつみ会は昭和59年の認可依頼、様々な施設や事業を通して、障がい者が自立した日常生活を地域社会において営むための、社会福祉事業を展開してきた。最近では民営化した保育所の運営で子どもを、特別養護老人ホームの開設で高齢者を対象として新たな事業も展開している。



マネージャーを務める阿由葉洋平氏。インタビューを行った飲食スペースからは、遊んでいる子どもたちの様子をゆったり見守ることができる。

キッズピアあしかがのように不特定多数の子どもや親と接触する仕事は比較的珍しい。キッズピアあしかがでの仕事内容はプレイリーダーとして「遊びのサポート」が中心で、インターバル中の遊具清掃などの衛生管理業務、窓口での受付業務も行う。就労継続支援A型ということで雇用契約が存在するため、利用者には最低賃金が適用される。契約に基づいた就労で、B型に比べ安定した賃金や各種保険（雇用、労災、健康保険等）も保証される。それに伴い、仕事としての責任も求められる。しかも、直接お客様と接する職場では、職員の行動がダイレクトにお客様の反応として返ってくる。

（※1）就労継続支援A型 障がい者が一般就労を目指し、雇用契約を結び給料の支給を受けながら利用する事業。雇用契約のないB型と違い、最低賃金が保証され比較的安定した収入が得られる。



マネージャーの阿由葉さんとスタッフのみなさん

「就労希望者には自分の能力に自信が持てない人もいます。一般職員と共に研修を受けたり、新たな仕事を覚えたりしていくうちに自信が持てるようになっていった。」と彼らの成長を振り返る。

子どもと職員の笑顔溢れる職場 障がい者雇用の新たなステージ

法人が今までに経験をしたことがない業種で、職員が不特定多数の子どもや親と接触する以上、一般職員と障がいを持った職員とが円滑に連携をしていくことが求められる。それについて、「ハローワークを通じて入職を希望される方がほとんどで、面接時に就労に対するモチベーションや考えをしっかりと確認している。そのうえで入職をしているので現場ではお互いに抵抗感はなく、トラブルも少なく関係は良好。」と阿由葉氏。

また、サービスの対象者が子どもであることも好循環を作りだしているようだ。子どもと職員の関係について「子どもの反応はダイレクト。提案した遊びが楽しければ笑顔で喜び、本人たちはそれをモチベーションに変える。面白くない

の「子どもたちがいかに楽しんでもらうかをいつも考えています。そのためには自分たちも楽しまなくてはいけない。」という言葉が印象的だった。

安心安全に体を使って遊ぶ環境が減ってきている子どもたちのために、おもいきり遊べる場所の提供は大変重要だ。また、障がい者と子どもたちが遊びを通して触れ合うことにより、子どもの社会性も育まれ、障がい者もモチベーションアップにつながる。子どもにとっても障がい者にとっても、得るものが非常に大きい施設だとあらためて感じた。

最後に、今後のキッズピアについて阿由葉氏は「足利市から運営を任せられている屋内子ども遊び場をしっかりと継続していきたい。福祉業界の全体の人手不足を障がい者の力を借りて解消し、楽しく運営できるような事業所にしていきたい。また、自信をもって仕事を楽しくしてもらえような、違った分野の新たな仕事も創造していきたい。」と語る。

「キッズピアあしかが」が、障がい者就労支援の新たなモデルケースとして全国の障がい者福祉の参考となり、ここで起きている化学反応と好循環が広く伝播することを期待したい。

ればつまらないとハッキリ言われ、それを聞いて反省し改善する」と語る。このような化学反応が、今までの単純作業とは異なる新たな魅力ある仕事場作りにおいて役立っているようだ。

そんな職場の良好な雰囲気を見ることができなのが、キッズピアあしかがのフェイスブックページだ。頻繁に更新されるページの写真には楽しそうに遊ぶ子どもたちの満面の笑顔と、一緒に遊べる楽しんでいる職員の写真も掲載されている。どの写真を見ても「いい職場なんだろうな」「ここで働いたら楽しいだろうな」と感じるものばかりだ。阿由葉氏



阿由葉氏からは障がい者就労支援と子どもたちへの良好な遊びの提供に対する熱い思いが伝わる。飲食スペース奥では施設内にある玩具の購入もできる。

筆者も参戦!! プロレスリングアライヴ東京大会 来年1月14日(日)／夢の島BumBで開催

- 日 時 / 2017年1月14日(日) 12:15開場 13:00試合開始
- 会 場 / 東京都BumB東京スポーツ文化館マルチスタジオ
- チケッ ト / 特別リングサイド(最前列・特典付) ¥4,000
リングサイド(二列目以降)一般・自由席 ¥3,000
小学生以下無料 ※保護者同伴につき
- 参 戦 選 手 / 末吉利啓、梅沢菊次郎、ジョータほか
- プレイガイド / プロレスリングアライヴ公式サイト
- お問い合わせ / TEL:080-5573-6133 (営業担当)



親なきあと

生活支援

知的障がい者の子のための……

任意後見契約までの 依頼の経緯と相談の経過

私が独立前に在籍していた事務所
の先輩弁護士から、相談事例の
一つで「知的障がい者の子（40歳
前後）を持つ親（70歳前後）か
ら、親亡き後の子の生活支援の相
談を受けた。自分は親の世代なの
で、そもそも親亡き後の子の生活
支援は難しい。子の生活支援がで
きないか。」という話がありました。
親からは、「現在は両親が子の
生活の面倒をみている。子は以
前は勤めていたが現在は働くこと
が難しく、障がい者施設に入所し
ている。収入は障害年金であり、

収支は両親が管理している。親が元気な
間は現状のままよい。しかし、両親の
体力・判断能力に衰えが生じた後、さら
には両親が亡くなった後の子の生活が心
配である。その場合に備えて今から対策
をしておきたい。」という相談内容でし
た。子には弟と妹がおりましたが、親に
よりますと、「弟も妹もそれぞれ家庭が
あるし、特に弟は家を継ぐことになる。
弟妹に兄のことで過大な負担は掛けられ
ない。」ということでした。
まずは親に対し、「子の判断能力が衰
えた場合に備えて、任意後見契約を利用
するのがよい。」とし、任意後見契約を
利用する方向で親と協議しつつ、また、
子の判断能力が衰える前の対策も含めて
検討することとしました。



弁護士
岡野 和弘

意外と知られていない 「成年後見制度」とは

「成年後見制度」とは、本人の判
断能力が精神上的の障害により不十分
な場合（認知症高齢者・知的障害
者・精神障害者等）に、本人を法律
的に保護し、支えるための制度で
す。

例えば、本人のために預金の解
約、福祉サービス契約の締結、遺産
分割協議、不動産売買等をする必要
があっても、本人の判断能力が全
くなければそのような行為はできま
せんし、判断能力が不十分な場合にこ
れを本人だけで行うと、本人にとつ
て不利益な結果を招く恐れがありま
す。そのような場合に、家庭裁判所
が本人に対する援助者を選び、その
援助者が本人のために活動する制度
が成年後見制度です。

成年後見制度には法定後見制度と
任意後見制度の2種類があります。
法定後見制度は法律による後見制
度であり、本人の判断能力が不十分
になったときに家庭裁判所が本人の
援助者を選任します。法定後見制度

度に応じて重いものから、成年後見・保
佐・補助の三つの類型があります。

任意後見制度は契約による後見制度で
あり、本人が判断能力のあるうちに、将
来判断能力が不十分な状態になることに
備え、公正証書を作成して任意後見契約
を結び、任意後見人を選んでおきます。
家庭裁判所が任意後見監督人を選任した
ときから、その契約の効力が生じます
（以上、「成年後見申立の手引」東京家
庭裁判所より）。

今回の相談に対しては、主として任意
後見制度を活用して子の生活を援助して
いくものです。具体的にどのようなように
活用するかは、次回からお話しします。



周りに頼れる親族などがない場合は、専門職に成
年後見制度の活用をお願いするなど、親亡き後の障
がい者の生活と資産の保護と保全をしましょう。

「任意後見制度」とは

任意後見制度は、本人が十分な判断能力があるうちに、将来、判断能力が不十分な状態になった場合に備えて、あらかじめ自らが選んだ代理人（任意後見人）に、自分の生活、療養看護や財産管理に関する事務について代理権を与える契約（任意後見契約）を公証人の作成する公正証書で結んでおくというものです。そうすることで、本人の判断能力が低下した後に、任意後見人が任意後見契約で決めた事務について、家庭裁判所が選任する「任意後見監督人」の監督のもと本人を代理して契約などを行うことによって、本人の意思にしたがった適切な保護・支援をすることが可能になります。

※法務省民事局ホームページより抜粋

「成年後見制度」とは

認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々は、不動産や預貯金などの財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだり、遺産分割の協議をしたりする必要があっても、自分でこれらのことをするのが難しい場合があります。また、自分に不利益な契約であってもよく判断ができずに契約を結んでしまい、悪徳商法の被害にあうおそれもあります。このような判断能力の不十分な方々を保護し、支援するのが成年後見制度です。

※法務省民事局ホームページより抜粋

まちなみ共生型分譲住宅「表情を愉しむ」が
グッドデザイン賞2017を受賞しました。



募集&告知

障がい者求人情報／生活情報と募集

このコーナーでは、障がい者の求人を行っている企業や団体を紹介しています。また、障がい者のための法律相談などの情報も掲載しています。本誌の取材等にご協力をいただける企業や団体の募集もこちらから。

知的障がい者スタッフ チャレンジャーさん募集



おしぼりのことならヴィオラへ。布おしぼり、紙おしぼり、レンタルタオル等をはじめとした様々な日用雑貨を取り扱っています。多くのチャレンジャー(知的障がい者スタッフ)がいきいきと働いています。



- 業務内容
レンタルおしぼり業
- 本社所在地
茨城県水戸市見川町2131-404
- お問い合わせ
TEL : 029-241-8251
- ホームページ
<http://www.viola.co.jp/>

「つむぐ」協力者を募集

知的障がいの方とその保護者の方で、小説制作のため、対談のお時間を頂ける方を募集しております。対談時の内容と写真、対談で作った短編小説が本冊子に載ります。ご協力頂ける方は、下記の宛先までご連絡ください。



- 応募要項
知的障がいの方、またはその保護者や親族、施設や団体のご担当者
- お問い合わせとご連絡先
一般財団法人メルディア事務局
担当/竹内 宛て
TEL : 03-5381-3213
MAIL : prd@san-a.com

布施博の訪問先を募集中

障がい者を雇用する企業や団体に布施博本人が訪問します。訪問先では、企業または団体の障がい者に対する取り組みや活動などを取材し、本冊子にて紹介します。行事や催事の告知も可能です。奮ってご応募ください。



- 応募条件
障がい者を雇用している(雇用予定も含む)企業や団体など
- お問い合わせとご連絡先
一般財団法人メルディア事務局
担当/竹内 宛て
TEL : 03-5381-3213
MAIL : prd@san-a.com

募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などが行う募集や告知などを無料で掲載しています。「知的障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、本誌編集部までお問合せください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、営利目的の内容、特定の宗教や信条を持つと判断される内容、反社会的と判断される内容などについては掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

情報掲載のお問い合わせ

一般財団法人メルディア

〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

一般財団法人メルディア事務局
担当/竹内 宛て

TEL : 03-5381-3213
MAIL : prd@san-a.com





Design Your Life
MELDIA
GROUP

同じ家は、つくらない。

01 | MELDIA CONTENTS 2018 JAN.

- 01 | 布施博 × 水越けいこ**
ベテラン2人が介護と障がいについて語り尽くす
- 06 | 一般財団法人メルディアとは？**
メルディアの基本理念、財団概要、支援事業
- 07 | 知的障がい者雇用企業訪問**
茨城県水戸市・株式会社ヴィオーラ編
- 11 | トウテミル！**
MC&女優・右手ナギが雇用企業に「問うてみる」
- 13 | 水越けいこ連載「M size」**
水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る
- 15 | 何気ない言葉**
シンガーソングライター・岡本隆根の本音コラム
- 17 | つむぐ**
知的障がい者と一緒に「ものがたり」を紡ぐ
- 21 | アライブしようぜ！**
異色のプロレスラーが最前線の「生きる」を取材
- 25 | 知的障がい者の子のための生活支援**
弁護士が教える「親なきあとの生活支援」について
- 27 | 募集と告知**
知的障がい者向けの求人情報&生活情報と各種募集

MELDIA 1月号 2017年11月25日発行
 発行元 / 一般財団法人メルディア事務局
 発行人 / 小池信三
 編集 / 株式会社サン・オフィス
 編集人 / 東宮恵美
 編集長 / 山口慎市
 進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)
 編集部 / 東宮恵美、山口慎市、谷口智彦、都筑亮太、加島和彦
 ライター / 水越けいこ、岡本隆根、岡野和弘、坂田陽子、山口慎市、都筑亮太、渡邊希望、右手ナギ、末吉利啓
 カメラマン / 加島和彦
 デザイン / 有限会社フレッシュャー・アド
 印刷 / 株式会社オフセット
 協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、株式会社ヴィオーラ、社会福祉法人 足利むつみ会、キッズピアあしかが、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、新村印刷株式会社、協同エージェンシー、Cafe SAWAYA(新宿区三栄町)撮影協力

本誌の無断転載・複製を禁じます
 2017-2018©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア&月刊メルディア/MELDIA GROUP 三栄建築設計/サン・オフィス

次号予告
MELDIA VOL.2
2017年12月25日
発行予定

一般財団法人メルディア
 〒163-0632
 東京都新宿区西新宿 1-25-1
 新宿センタービル 32F
 一般財団法人メルディア事務局
 TEL: 03-5381-3213
 MAIL: prd@san-a.com

メルディアグループ
<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
 〒163-0632
 東京都新宿区西新宿1-25-1
 新宿センタービル32F



まだ25年、
これからのメルディア